

木村委員 説明資料

令和5年12月20日（水）

第1回 クールジャパン・アカデミアフォーラム

テリトリーオ：豊かな社会の実現

法政大学 木村純子



プロシュット・ディ・パルマPDO (2013.1.10筆者撮影)



ボルゴタロのPGIポルチーニ(2013.9.22筆者撮影)



ラディッキオ・ロッソ・ディ・トレヴィーゾPGI (2015.12.18筆者撮影)

テリトリーオとは「社会経済的、文化的なアイデンティティを共有する空間の広がりとしての地域あるいは領域」(陣内, 2022, p34)

農業の底力
(農業の多機能性)



ワインと郷土料理のエノガストロミアが都市と農村を結び付け
コモンスの精神を再生させる

イタリアはいかにして
地域のポテンシャルを再評価し
都市文明からの脱却を
果たしたのか?

日本への
示唆に富む
学際的研究
による
新文明論

北米：テリトリーオがない世界

チーズはどこで作っても同じ

地域性(テリトリーオ)がない世界はつながりのない貧しい社会

1. 肥満
 1. 工業製品の食品、ジャンクフード
 2. 成人の82%が太り過ぎか肥満か超肥満
2. 生産者の顔が見えない農産物・食品
 1. 多段階フード・サプライチェーン
3. 地域アイデンティティがない
 1. 生産者は地元を守ろうとする意識が薄い
 2. つながりがない



写真：2023年2月13日木村撮影

酪農で有名なW州の「誇り」のモノサシは数字

比較して数と規模が

- 多いか
- 大きいか



経済価値と非経済価値のバランスを取ることが重要

コストを外部化しない ポーターの共通価値創出 (CSV)に通じる

写真：アマルフィ海岸の耕作放棄地の再生

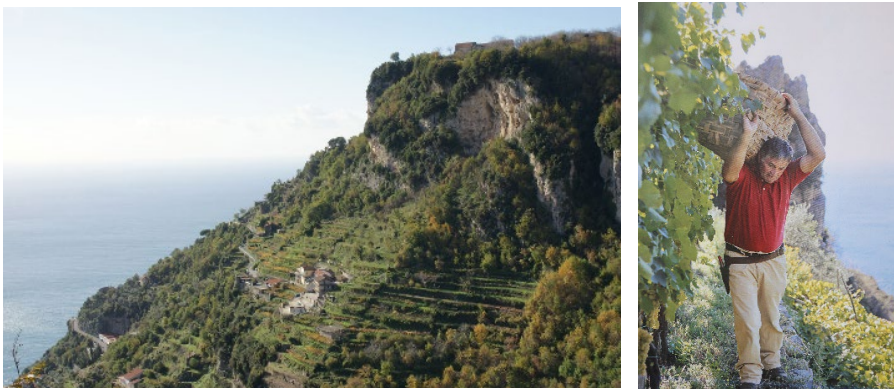


図1 農業の2重構造

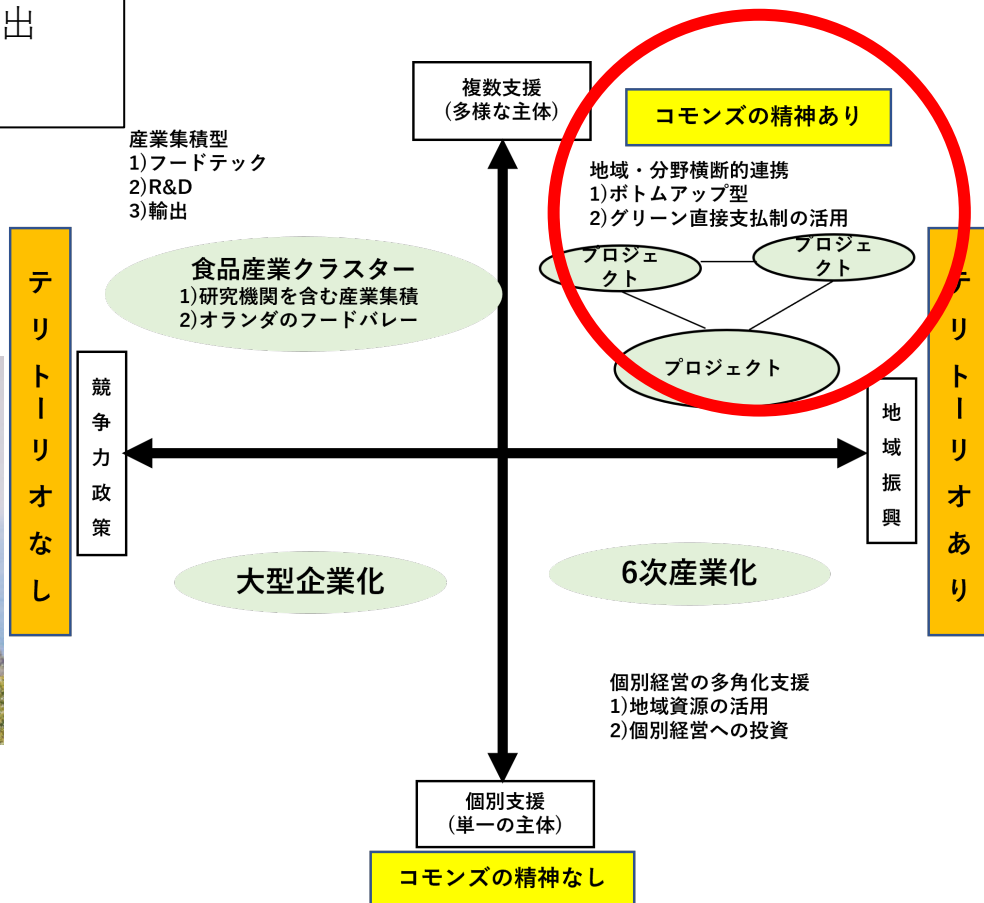
市場と取引する経済活動

上層

農村のみなでが協力して、
共有財を守る (コモンズの精神)

下層

図2 農村振興戦略の分類



出所：山内良一(2018)「近年のEUにおける農村振興政策と財政支援制度」『熊本学園大学経済論集』24,p82をもとに筆者作成

日本の事例 農業の多機能性で農村振興



多機能性①地域アイデンティティ

- いせはら地ミルクの事例
住民・酪農家・乳業メーカー・自治体のネットワークによる価値創出



多機能性②共有財としての景観

- 大阪GIの事例
 1. 市民の憩いの場
 2. 企業の社員教育
 3. 共有財産としての景観をコミュニティで管理・保全



出所：2022年3月24日筆者撮影

GDPの呪縛から日本を解放させる

1. 農産品・食品を売ろうとするだけでは20世紀的
2. 企業はコストを外部化しない